

## 「地域に身近な公園再生指針（案）」 に対する市民意見の内容及び市の考え方

「地域に身近な公園再生指針（案）」に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見とそれに対する本市の考え方を公表いたします。なお、ご意見の内容については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文の一部を要約、分割するなどして掲載させていただきましたので、ご了承ください。

令和8年3月

### 市民意見募集の概要

#### ●募集期間

令和8年1月19日（月）から2月17日（火）まで

#### ●提出状況

提出者数：40人

提出方法：郵送（3人）、FAX（1人）、電子メール（34人）、持参（2人）

#### ●意見の内訳

1. 「はじめに」・「第1章 現状と課題」について	2件
2. 「第2章 基本的な考え方と方針」について	16件
3. 「第3章 再生の取組み」について	80件
4. その他のご意見	37件
	<u>合計：135件</u>

名古屋市 緑政土木局 緑地部 緑地事業課

電話：052-972-2486

FAX：052-972-4142

電子メール：a2487@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp

# 目 次

<b>はじめに・第1章 現状と課題</b> .....	1
指針策定の趣旨に対するご意見（2件） .....	1
<b>第2章 基本的な考え方と方針</b> .....	2
再生により目指す姿、再生の進め方（16件） .....	2
<b>第3章 再生の取組み</b> .....	4
公園の特色を伸ばす再整備（38件） .....	4
維持管理（15件） .....	8
運営管理（22件） .....	10
総合的なマネジメント（5件） .....	13
<b>その他のご意見</b> .....	15
その他のご意見（37件） .....	15

## はじめに・第1章 現状と課題

---

### 指針策定の趣旨に対するご意見（2件）

#### ■指針策定の趣旨に対するご意見（2件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 戦後の高度成長期に整備が進んだ「地域に身近な公園」が老朽化しているのは感じるので、再生指針を策定すること自体には賛成である。
- ・ この指針（案）が推進され、魅力ある地域が増えることを期待している。

##### 【市の考え方】

- ・ 今後、本指針に基づき、まちの変化にあわせて公園を地域に求められる姿に変えていけるよう、地域に身近な公園の再生の取組みを進めてまいります。

## 第2章 基本的な考え方と方針

### 再生により目指す姿、再生の進め方（16件）

#### ■再生により目指す姿、再生の進め方（16件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 公園をどうするか、という発想ではなく、まちをどうするか、という発想が素晴らしいと思う。公園はまちづくりの中心になりえる存在だと思う。周りのまちやくらしも含めてどうしていくのかを示したこの方針に賛同する。
- ・ 「3つの力と多面的な効果」は素晴らしい発想だと思う。みどりはたらしがとてもうまくまとめられていて分かりやすい。
- ・ 単なる修繕でなく健康づくり、防災、コミュニティの場など公園の役割を広げていく方針にしてほしい。
- ・ 地域住民にとって、地域に身近な公園は子どもの健全な成長と地域コミュニティの形成に不可欠な施設だ。
- ・ 公園が、まちのコミュニティの中心となり、人々の居場所となるという本指針に、大きな期待とわくわく感を抱いた。日常の中で生まれる緩やかなつながりが、平時だけでなく災害時にも力を発揮する—その可能性を強く感じる。
- ・ 「必要な6つの機能」（19ページ）については理解できるが、指針（案）に書いてある通り「組み合わせる」効果的に発揮するよう、単体的な公園、単なるイベント広場のようにならないよう、気を付けてほしい。
- ・ 公園の機能や役割は指針の中に6つの機能として記述されているとおおり、暮らしの中で、子どもの育ちにとって、あるいは地域全体にとっても重要である。
- ・ 再生により目指す姿のページを見ていて、このように地域の人が憩う、集う公園になればと思う。
- ・ 利用アンケートでもあったように、学童期の子どもたちは公園の過ごし方として第3の居場所として利用する子たちも多い。まちづくりにおける公園として「恵比寿南一公園」という「育つ」「つながる」「広がる」をキーワードに、子どもたちの遊びを通じた、学び・育ちの場としてPark-PFI制度を活用した公園が渋谷区にある。公園内には、カフェ店舗もあり、様々な世代が過ごせる魅力ある公園だ。「名古屋しみどりの基本計画2030」にはみどりの都市像として地域コミュニティの交流、子どもたちの健全育成の場の地域力が基本方針としてあり、その中でもプレーパークが紹介されている。正に、子どものサードプレイスとしてのコミュニティ形成や子育て支援、まちの課題解決の効果が期待できる。子ども・子育て政策としてのこどもまんなか公園づくりとしても、安心して子育てできるまちの取組みの効果も期待できる。
- ・ 地域を良くしたいという志を持った仲間が集まって、地域の価値向上を目指し、エリアマネジメントに取り組んでいる。  
まち歩きや勉強会、ビジョン作成、イベント等、地域の関係者と共に様々な活動をしている。活動をしていくうえで、「地域に身近な公園」の存在は大きく、地域に身近な公園が暮らしの質を高める場・拠点になると肌で感じており、特にあまり使われていない公園に対しては、気持ちよく使えるような公園にしていけたら、公園からまちが明るくなっていくだろうなと思っている。それ故に、指針（案）に共感・賛同するところが多く、私たちが活動をしていくうえでの方向性を示すと共に

励みにもなる。

- ・ 指針（案）については興味深く、反対するものではない。むしろ、具体的改善として、ここ数年の温暖化の影響による猛暑の為に、夏の数カ月を使えない状態を何とか改善してほしいと思っているし、地域に求められている姿に変えていくことには賛成する。
- ・ 地域に身近な公園において6つの機能を設定し、それらの機能を組み合わせて効果的に発揮させ、画一から個別最適化した公園への再生計画にとっても賛同する。
- ・ 中川区松蔭公園の整備と拡充について。松蔭一・二丁目移住については、計画を聞いたり図面を見たりしたいし、松蔭公園と市電線路跡地の児童公園のいきさつを知って空地利用を考えたい。当分は広域災害用広場とし遊具、道具設備は極力さけて上下水や電気等インフラは余裕を持たせ少々容量を大きめで設計してほしい。川表側の整備では現松林内の枯損木の代替えと移植を行いたい。
- ・ 公園整備を予算ありきで判断するのではなく、実際の地域ニーズと将来の災害リスクを踏まえ、実態に即した公園のあり方を戦略的に検討されることを強く要望する。
- ・ 「公園の機能分担」の考え方についてはある程度理解を示すが、小さな公園には「休憩場所・憩いの場」などとして、小さな公園なりの良さがある。安易な公園の統廃合や削減にならないよう、十分注意してほしい。
- ・ 「ブランコ、すべり台、砂場の、公園の三種の神器」について、なんだか経費の掛かる悪者のようにも読み取れかねない。「遊具で遊ぶ」というのが小中高を問わず子どもたちの「サードプレイス」貴重な場所として役立っている以上、備品などを「経費優先」だけで決めてほしくない。

#### 【市の考え方】

- ・ 本指針においては、個々の公園の特性を活かしながら再整備、維持管理、運営管理といったあらゆる面から、公園の再生の取組みを進めていくこととしております。ご意見の趣旨を踏まえ、地域に身近な公園が暮らしの質を高める魅力的なまちを目指してまいります。

## 第3章 再生の取組み

### 公園の特色を伸ばす再整備（38件）

#### ■地域等との調整（5件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 「地域との調整」について、「こども基本法」に沿って意見表明の機会を保障し学区レベルで保育園児から中高校生までの声を聴く機会をもってほしい。
- ・ 樹木の伐採などに関しても、地域住民、子どもたちへの説明をしてください。地球温暖化への対応としても重要である。地域役職者への説明で終わらず「公聴会」等の開催をお願いしたい。その方が、地域街づくりへの基礎作りともなると考える。
- ・ 拙速に答えを出さず、十分に意見を聞き、熟考し、広く市民に情報提供をお願いしたい。
- ・ 公園再生のプロセスにおいては、地域住民の話し合いの場が設定され、「自分たちのまちは自分たちがつくる」という「まちづくりの自分事化」が進み、公園への愛着が深まることを期待する。豊かで便利な世の中になった。公共サービスが行き届いているゆえに、公共の施設は役所が整備するものであり、公園は身近にあるが、住んでいる住民自らが、公園のあり方に対して意見を出したり、活用方法を自分たちが考えたりしていくことができる…という認識が住民間にはあまり育っていない気がする。  
子ども会の衰退、老人会の解散、町内会離れ…など、これまで地域を活性化させていた組織からの組織離れも問題になっている昨今、「公園の利活用」をテーマに、住民同士が話し合う機会が生まれることで、「まちづくりの自分事化」が進み、地域住民同士がつながりや住民自治が生まれる機運が高まることができると嬉しい。
- ・ まちには老若男女いろんな方が住んでおり、意見は多種多様で、まとまるには相当な労力がかかると思う。身近過ぎる関係性ゆえに住民だけでは話し合いが上手く進まないことが考えられるので、「コーディネーター」「ファシリテーター」をたて、住民同士がフラットに意見を出し合い、合意形成を目指すことができるような話し合いの場が設定されることが望ましく思う。  
話し合いが、意見の対立を生む場ではなく、ワクワクするものであってほしいと思う。住民だけではなかなかそのような話し合いが難しいため、公園再生のプロセスの中で、行政主導で「ワクワクする話し合いの場」を設定し、公園について住民同士の話し合いを楽しく進めるサポートをしてもらえると、公園が生まれ変わるだけでなく、まちにかかわる住民の意識も変わってくるような気がする。

##### 【市の考え方】

- ・ 地域の「〇〇したい」が実現できるように、再生後の公園がどのように使われるかを想定しながら地域に身近な公園の再生に取り組んでまいります。市民、事業者等のみなさまと調整しながら、公園の特色を伸ばす再整備を行ってまいります。

## ■整備範囲の設定（1件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 「プレイマウント（富士山すべり台）などは、再整備の範囲から除外し」（27ページ）とあることについては、名古屋の公園ならではのアイデンティティーとも感じ、大賛成だ。

### 【市の考え方】

- ・ 名古屋発祥のプレイマウントは、大型のコンクリート製遊具の特性として、技術面や費用面での課題もございますが、市民のみなさまにとって大変愛着のある遊具だと認識しており、可能な限り補修等をしながらこれからも大切にしていきたいと考えております。

## ■再整備の内容（32件）

### ア 賑いのコーナー（1件）

### 【市民意見の概要】

- ・ あちらこちらに魅力ある緑と空間が維持できれば、観光地としての名古屋の名も挙がると期待される。

### 【市の考え方】

- ・ 「賑い活力機能」の発揮が求められている公園を中心に、マルシェ等のイベント、キッチンカー設置が行いやすい環境を整え、周辺のまちとつながった広場が、地域活性や地域の誇りの場として特色を伸ばすことを目指してまいります。

### イ 憩いのコーナー（7件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 食事ができる場所や図書館などが併設されていたら、子どもたちだけでなくお年寄りなども集えて、地域にすむ人々の憩いの場になると思う。
- ・ 公園が元気な老人と子どもの交流の場所となることを願う。
- ・ 幼児、児童から大人、高齢者まで同時に活用できる公園が望ましいと思います。緑、日陰、椅子などは必要と思う。
- ・ 休憩施設を充実させ、使いやすい公園とすることを求める。
- ・ 近くにある公園は、以前は町内でもちつきや、子ども会のお祭など、イベントがあった。今は高齢化、少子化で何も無い。
- ・ ヒアリング結果の中にあつた「公園利用は1歳半頃からが多い」という点が気になった。本来、五感で世界を感じている乳幼児期の子どもたちにとって、自然は非常に貴重な環境だ。しかし実際には、「まだ遊べない」「砂を食べてしまう」「暑さ寒さが心配」「保護者自身が公園が苦手」といった理由から、0歳児期に公園で過ごすことを避ける声も多く聞かれる。  
そこで、親子が安心して過ごせる「公園にとどまれる場」があることで公園への捉え方が変わるのではないかと感じている。夏の暑さを避けられ、冬の風をしのげる場所があれば、1年を通して公園の心地よさや利点を実感するきっかけになるのではないだろうか。
- ・ 公園の中に、室内と屋外の間、いわば「縁側」のような空間があつたらと考える。  
隔離された室内ではなく、出入り自由で、世代や立場を問わずふらりと立ち寄れる場所。たわいもない話から顔見知りになったり、何気ない会話が悩み相談につながったり。

### 【市の考え方】

- ・ 「地域憩い機能」の発揮が求められている公園を中心に、地域の「〇〇したい」が実現できる交流の広場を確保し、地域コミュニティの場として特色を伸ばすことを目指してまいります。  
屋根付き休憩所やテーブル付きベンチの設置、公園を使いこなせるようなサポートなどにより、誰もが使いやすい公園づくりに取り組んでまいります。

## ウ 子育て支援コーナー（5件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 子どもの遊具にプラスチック製でなく本物の木で木のぼり、ブランコ、綱渡りができるものがあると良いと思う。
- ・ 子どもたちの思いを募ったうえで、遊具は奇抜なものより基本的なもの、そして空間をできる限り広くとっていただけると有り難い。
- ・ 時々近くの保育園の園児が遊んでいる。
- ・ 既存の大型公園では、対象年齢が広すぎるため、特定の年齢の子どもが気軽に利用しにくいという課題がある。小規模でも、就学前児童向け、低学年向けなど、細分化された施設があることが重要だ。
- ・ 施設の「新たな設置」＝「新設」も検討できないだろうか「名古屋の公園にはユニークな設備があり、楽しい」ぐらいのアピールがあってもいいのではないかと。

### 【市の考え方】

- ・ 「子育て遊び機能」の発揮が求められている公園を中心に、近所の未就学児の親子、保育園等の園庭利用など、乳幼児の重要な外遊びの場としての特色を伸ばしてまいります。  
公園の整備にあたっては、乳幼児や小学校の低学年、高学年など、利用年齢を想定したゾーニングや施設設置に取り組んでまいります。

## エ ボール遊びコーナー・健康運動コーナー（4件）

### 【市民意見の概要】

- ・ フットサルコートの利用促進に「ウォーキングフットボール(ウォーキングサッカー)」を活用すると良いと思う。走らないことで老若男女に留まらず、軽度の身体障害者も同じチームと一緒にプレーが出来るため地域住人の懇親イベントでも活用しやすい特長がある。
- ・ 「健康運動」ができる遊具があると良いと思う。
- ・ 長寿高齢化や健康志向の高まりに対応して「健康遊具」の導入は大幅に増やすべきだと思う。海外には道路脇の歩道上にあったりする例もあり、日本国内でも多くの自治体に導入されていると同時に、「健康遊具」を製造・販売しているメーカーもある。市民が無料で健康器具を使うことができたなら、健康増進に役立つと思う。
- ・ 高齢者用に健康器具で健康を促進するための場所にする。（高齢化社会への対応）

### 【市の考え方】

- ・ 「健康運動機能」の発揮が求められている公園を中心に、健康遊具を設置するなど、誰もが安心して気軽な運動ができる環境を確保することで、身近な健康増進の場としての特色を伸ばしてまいります。

## オ 自然ふれあいコーナー（11件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 名古屋の在来種の地域保全活動に重点を置いた「エコパーク」を整備すると良いと思う。
- ・ 地球温暖化に対応した、比較的メンテナンスの容易な世界の南方系の植物を大幅に増やすと、まるで南国のようで楽しくて良いと思う。
- ・ 噴水や水路、水遊び場が設置されている公園は多くあるが、水が流れておらずコンクリートが野ざらしになっているだけのデッドスペースとなっているケースが多い。近くの川や用水を活用して通年で流れるようにするか、ランニングコース、その他遊具などへ切り替える方が良いと思う。撤去して土や芝生、植物を植えるだけでも良いと思う。
- ・ 生物多様性を保全するには、一定以上の面積の東海地方の極相林に見られる照葉樹、東部丘陵の二次林に見られる落葉樹、低木、草本等、名古屋に古くから生えている在来種を植栽することが必要だ。ビオトープ等で、市民が生物多様性を感じられるような公園もあると良いと考える。
- ・ 落葉の季節に大量に出る枯れ葉を、ゴミとして処理するのではなく、コンポストを設置して集め、土づくりなどへの再利用につなげられないか。環境への意識を育てる学びの場にも。
- ・ 整備された公園だからこそ、土を掘る、木に登るといった体験が難しい現状もある。遊具などが充実し、きれいに保たれた公園も魅力だが、一角に、子どもたち（そして大人も）が自然の中、自由な想像力で思いきり挑戦できる、自由度の高い場があることで叶うこともあるかと思う。
- ・ 安全のために「見通しが良い」のも大事な時代だが、意図的に「雑草などが生い茂る草むら」や「泥んこになって遊べる」、あるいは「噴水等で、びしょびしょになって遊べる」公園がもっとあってもよいと思う。
- ・ 子どもたちには遊具ではなく森で遊べるような工夫と提案をする。
- ・ 天白区天白公園には、小さな山があり、池、芝生、プレーパーク、遊具、バーベキュー場がある。山や芝生、小さな池、プレーパークでは子どもたちが夢中になって遊んでいる姿が見られる。自然が多く残されていることで、見られる姿だと思う。整備され過ぎている公園より、自然があり(残っており)子どもたちが好きに過ごしていい、大人が我が子を注意しなければ…と思わずに済む、ゆるく見守りができるような公園であることが、禁止事項の看板ばかりでない公園になるのではと思う。
- ・ 県営緑地のすぐ近くに住んでいる関係で、公園は身近な存在だ。  
子どもたちも30を超えて、特に感じることは指針（案）31 ページあたりにあったが、必要以上に手入れしない自然と適度に手をいれる自然のバランスについてだ。子どもとクワガタムシ捕りができるような、手の入れ方もあるのではと思う。虫とりに適した樹齢に管理した区域を作る、切らないままクヌギよりも、炭焼きとかの定期的な管理により、子どもが足でけると虫が落ちるような、樹齢の若いクヌギ林などの自然林をつくることだ。定期的に間伐するとか、手入れをすることで維持される自然林を含んだ公園があればいいと感じた。炭焼きとかは希望者を募るとか方法はあると思う。クヌギ林の雑木林はあるが、すぎて、林のなかに生き物の気配がない。下草や落ち葉もない都会の雑木林に落胆した。そのような公園もあればいいなと思った。
- ・ 北区上飯田南公園（小規模）について。5年ほど前から公園の一角で、花壇づくりを地域の皆さんにより行っている。道行く方から「心癒されます」とお褒めの言葉頂いている。公園造りに必要な用具の保管場所を、手狭になっている防災倉庫に同居が余儀なくされている。各公園には「愛護会器具庫」が設置されており「愛護会器具庫」の設置を要望する。

### 【市の考え方】

- ・ 「環境共生機能」の発揮が求められている公園を中心に、過度に手を入れずに管理することで、昆虫・鳥などの生息の場としての特色に加え、自然の中での子どもの遊び場としての特色も伸ばしていくことがわかるよう記述を見直しました。
- 環境共生の機能を高めるためには、様々な方法が考えられます。ご意見の趣旨を踏まえ、公園整備にあたり今後の参考とさせていただきます。

## カ 災害対応型施設（4件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 大きな市営住宅が周りに多いので、「防災」を取り入れた椅子の設置なども検討して欲しい。
- ・ 人口増加と宅地密集化が進む地域では、災害時の避難地や、復旧時の資材・瓦礫置き場として公園が果たす役割は大きい。
- ・ かまどベンチや防災パーゴラを設置し、災害時だけでなく日常から使える場にする。
- ・ 防災の機能も考えた場所として、屋根のあるテーブル椅子スペースをつくる。沢山作らなくてなくてよいのでキャンプもできる場所（有料予約制）として貸し出す。

### 【市の考え方】

- ・ 「震災に強いまちづくり方針」において、広域避難地、一次避難地として位置づけられている公園を中心に、地域特性を踏まえたうえで、十分なオープンスペースを確保しつつ、災害対応型施設の導入を進めることで、応急的な救助活動のための空間として活用できるよう機能を高めてまいります。

## 維持管理（15件）

### ■維持管理（15件）

#### ア 遊具等の更新等（3件）

### 【市民意見の概要】

- ・ 老朽化した遊具など安全性向上を重視してほしい。
- ・ 壊れた遊具が長い間放置されているものが見受けられる。子どもは思いがけない遊び方をすることもあるため、事故につながらないように、できるだけ早く修理や撤去されると安心できると思う。
- ・ 砂場は野良猫がふんをして不衛生だ。

### 【市の考え方】

- ・ 公園利用者が安全に施設を利用できるように、「公園施設維持管理計画」に基づき、ライフサイクルコストの縮減や経費の平準化を図りながら予防保全型管理による施設の再生を進めてまいります。

#### イ トイレの更新等（2件）

### 【市民意見の概要】

- ・ トイレの更新など安全性向上を重視してほしい。
- ・ まずは、「地域」の感覚にポテンシャルは理解できるが、絵や写真からうかがうに付け、地域にある30m×30m（小規模）は除外の意を感じ残念な思いだ。散歩の途中ある小規模公園のトイレ（男性

用2、女性用1)を借りた。そこでは、地域のお年寄りの方々がグランドゴルフをされている。そのトイレの女性用(大小兼用)に使用禁止の貼り紙があり、テープでブロックされていた。改修されるまでの間代用トイレが欲しいと思った。お年寄りは切実なので、理解してほしい。

#### 【市の考え方】

- ・ 公園利用者が快適にトイレを利用できるように、「福祉都市環境整備指針」に基づき、トイレの更新等を進めます。築年数や公園の位置づけを踏まえ、建替えや改修を進めてまいります。

### ウ 広場の更新等(1件)

#### 【市民意見の概要】

- ・ 町内会で行なわれていた草むしり、そうじもなくなり草が生い繁っている。

#### 【市の考え方】

- ・ 公園利用者が快適に広場を利用できるように、雑草の繁茂、排水不良がある広場については、表層の改良を進めてまいります。

### エ 緑陰空間の更新等(5件)

#### 【市民意見の概要】

- ・ 犯罪が起らないように、見通しの良い造りにしてほしい。
- ・ 公園内のトイレは、見えないようにしているのだろうか。木々が生い茂り見えないので、男性以外は、利用しにくいのではないだろうか。
- ・ 整備をする上で「樹木」や「緑地」の割合を減らさないこと。樹木は成長すると管理に費用がかかるが、一朝一夕に大きく育てることもできないものだ。持続可能な開発目標(SDGs)の観点からも樹木の切り倒しや間引きを行わないよう、工夫が必要だと思う。「地域に身近な公園」とは少し異なるが、中区久屋大通公園北側の再整備では、木漏れ日や木陰といったものがかなり減らされ、単なるショッピングアベニューのようになってしまった「失敗事例」もある。また、指針(案)に例示された中区池田公園などは「すっきりした」といえば聞こえはいいが、無味乾燥した面白みのないイベントスペースのようになってしまっている。通路部分も含めて透水性舗装にする等「コンクリートに囲まれた公園」にならないよう、徹底的に注意してほしい。
- ・ 樹木は常に成長し、密植された木々は徒長して高木化する。街路樹・公園樹を問わず、高齢化した樹木や徒長した高木は、倒木のリスクが高くなるので早く幼木と更新することが、合理的・経済的な管理手法だと思う。これは、人間社会の高齢化問題と類似性があり、剪定や治療にコストがかかるからだ。早めの剪定・主軸の切除が管理コスト削減の要であると思う。  
樹木を自然のまま伸び放題に放置することが「環境に良い、あるべき姿」という「説」は、生命科学が進歩した現在では正しい説ではない。樹木の剪定と早めの更新によって管理コストの節約に努めてほしい。
- ・ 緑区滝の水公園の最大の特徴である360度の眺望を保つため、周辺部の樹木を伐採・剪定・低木化してほしい。サクラの木も含めて、低く剪定してほしい。  
とりわけ、公園の外周鉄柵と外周道路や隣地との間に放置されている雑木は年々高木化しており、視界を妨げ、美観を損なっているだけでなく、強風による倒木や枝の飛散による人的被害や隣接地建造物への加害も懸念される。さらに、多くの樹木に、つる性植物やよじ登り植物が覆い被さり、被害樹木の弱体化によって病気や食害が多発することが懸念される。

#### 【市の考え方】

- ・ 公園樹木が健全で美しい状態となり、公園利用者が安心して過ごせるように、公園樹木の再生・保全・育成に取り組み、快適な公園空間の創出、安全・安心の確保を目指します。

### オ 駐車場の更新等 (3 件)

#### 【市民意見の概要】

- ・ 公園利用者以外の駐車場使用、駐車スペースとして使われてしまっている現状もあると思う。33ページの「すべての公園駐車場について、原則有料化を検討する」については賛成だ。
- ・ 公園の駐車場を有料駐車場にできないだろうか。現状、公園の駐車場が昼は解放され自由に使用可。夜間は定時に閉められ使用不可。周りは住宅地が多く、訪問者などは有料駐車場も無いため、路上駐車をせざる得ない状況がある。
- ・ 天白区天白公園もだが、駅から子連れで歩いて行くには遠い距離にあるが、駐車場が有料だ。遊びに来る度に駐車料金がかかっては足が遠のく。この声は多く聞く。考えてほしい。

#### 【市の考え方】

- ・ 幅広い公園利用者が適切に利用できるように、「公園経営基本方針」に基づき、すべての公園駐車場について、原則有料化を検討します。
- ・ 公園利用にかかる公平性の確保や、行政財産の有効活用の観点から、有料駐車場としての運用にご理解いただきたいと考えております。

### カ 有料のスポーツ施設の更新等 (1 件)

#### 【市民意見の概要】

- ・ 土グラウンドの野球場の割合が多すぎると感じる。土は芝生と比べて地表温度が10度近く高くなるという調査結果もあり、野球場が名古屋のヒートアイランドを助長している一面もあるため、ある程度は芝生グラウンドへの切替が必要と考える。特に女子サッカーの振興で芝生グラウンド利用のニーズが高まると考えられる。

#### 【市の考え方】

- ・ 地域に身近な公園の再生にあたっては、公園の整備、維持管理、運営管理に係る全体の行政コストを最適化していくことが必要です。芝生グラウンドについては、施設利用料と維持管理費のバランスがとれる施設運用が必要であり、既存施設の利用状況やスポーツレクリエーションに対するニーズを踏まえて、検討していきたいと考えております。

## 運営管理 (22 件)

### ■運営管理 (22 件)

#### 【市民意見の概要】

- ・ 公園でブランコにのるとカノジョができるなど、若者がワクワクする公園「恋活公園」を実現すると良いと思う。
- ・ 公園は色々な実証実験が可能なエリアだ。「人工光合成の設備を設置する」「高輪ゲートウェイのように自動走行モビリティを回遊させる」「ドローンの活用実験を行う」などを積極的に行うと良いと思う。関係者の訪問により「公園に人が増える」ことで公園周辺の治安悪化の抑止にも繋がる

思う。

- ・ 防犯活動を全面的に否定しているわけではない。公園を明るくしたり、見守り活動をしたりするのは構わない。肖像権やプライバシーを守って防犯活動をしてもらいたい。
- ・ 近所の人と一緒に顔を合わせて付き合うことができれば、防犯意識も高まり、有事の時には助け合うことができ、地域の力が高まると思う。
- ・ 人の交流、特に小さい子どもたちとは接する機会がない。公園に行ったら幼児の見守り、会話などができることを願う。
- ・ 若いお母さんたちの育児相談を受けたり、開放される時間を持たせてあげたいと思う。
- ・ PFI 活用は世界的にみると否定されてきており、避けて欲しい。
- ・ 天白区一つ山第一公園に関して、最近では、車で公園を利用する方々が多く、また、保育園がすぐそばにあることもあり、車の往来が激しい。道路に止めてはいけないわけではないが、周辺住宅の出入口に平然と停める車もあって、デイサービスを利用している高齢者が、住宅に簡単に出入りすることができなかつたり、デイサービスの車内で待機されている高齢者を危険にさらすことも多々ある。介護が始まると、色々な人が出入りすることもあり、ヘルパーや訪問看護などの車だと長時間の駐車になる。周辺住宅に住む人に悪質な方もいて、道路を駐車場として利用している方もいる。
- ・ 大きな公園（中川区富田公園）の目の前の子育て応援拠点では、四季の変化を間近に感じられる環境の中で、景色、空気、風、自然の音に、スタッフも利用者も日々癒されている。また、公園の環境を大いに活かし、自然を感じながらの催しや地域のつながりづくりを目的とした取組みを地域に向けて働きかけている。
- ・ 緩やかなつながりの中で、知識や情報が自然と伝わり、誰かの強みが誰かを支え、また別の形で支え返されていく一地域のコミュニケーションが育つ場になれば素敵だと思う。公園の中にある学童のように、世代やハンディを越えて集える交流の場（居場所）となる拠点を設置できると良いなと思う。

例：駄菓子屋（おやつ屋さん）＋小さな部屋（居場所）

赤ちゃんから高齢者まで利用できる、自由度の高い遊び・集いの場（「好き」に没頭したり、挑戦したり、ぼーっと過ごせる空間）

立ち寄り、学び、表現が生まれる多機能カフェ

地域に必要な店舗を長屋のように配置した場所

- ・ かまどベンチや防災パーゴラを設置し、災害時だけでなく日常から使える場にする事で、小規模で身近な催しを頻繁に行えて、地域住民が顔を合わす機会が増え、顔と顔の分かる関係性の広がる人が自然と集まる「楽しい場」になり、結果として、いざという時だけでなく、日頃から助け合える関係性が育まれる、と考える。「楽しい」と地域の課題を織り込んでいく。

例：炊き出しとプチ音楽会、ピクニックとおゆずり会、プチカフェ＋青空図書館、

長期休みに子どもたち中心のおにぎりや味噌汁の提供 など

- ・ 誰でも立ち寄れる場所や防災パーゴラなどがあることで、新たに起こる問題も想像できる。すでにこのような取組みも始まっているようなので、その中で実際に課題となっていることなどのお話も聞きたい。行き過ぎた行為やゴミの問題、この場の管理など、懸念は色々あるかと思うが、それらも地域住民の意識を高めていく中でモラルと緩さが良いバランスになるような仕組み作りを取組む方向へいけたら。それぞれの地域に合ったものにしていくためにも、まずは、そういった話し合いが地域住民の中で増えていき、取組み自体を地域住民で進めていけることも大切かと思った。

物・人・力・環境が「循環」される公園となるとよい。

- ・ 「ボール遊びコーナー・健康運動コーナー」(30 ページ) については賛成だ。「ボール遊びは禁止」「野球は禁止」「〇〇は禁止」と看板・注意書き・標語だらけの公園が多過ぎる。
- ・ 森・緑・池・虫・鳥・花・環境について学びたい人達が集まり、協力しあい学びながら合意形成をし、みんなで作る特色ある公園にしていけないだろうか。(地域の若い動ける人たちの意見優先)公園の公的な役割も考慮する必要があるため会議には行政も関わる。必要な経費は計画的に熱量と協力者を見込んで対応する。地域の居場所・コミュニケーションをつくる場所として機能させる。バイオネストなどをつくりこれからの環境を考えて、年齢関係なく学びと実践の場所にする。(ボランティアの場所にしてもよいが、年寄りばかりになるとメンバーが固定し、上下関係ができて関わりにくくなる。)行政の若い人達の学びの場所とし、協力しながら世代交代を促す。

現状、公園愛護会があるようだがわかりにくく何をやっているのかも知らない。その他ボランティア団体の活動もあるようだ。間伐など時々してくれていて森を守ってくれていると感じるが、公園には掲示板もなく、案内が広くなされないこともあり、協力関係が作りにくい。
- ・ 12 ページで子どもたちが公園利用したい理由にあげている中にボール遊びがあるが、禁止されている公園が多い。行政にクレームの電話が入り、その対応で看板が増えるより、その場で声を掛け合って、お互い気持ちよく過ごせるのが一番だ。禁止事項の看板が、ここに書いてあるだろ!と余計に大人の上からの注意に拍車をかけているとも感じる。26 ページの世田谷区の家がいいと思う。
- ・ 名古屋市では緑のまちづくり条例に基づき、愛護会や緑のパートナーなどによる活動が行われている。自治体と地域団体が協働し、地域の魅力ある活用できる公園を目指して、地域まちづくりアドバイザーなどの連携と共に公園の機能を考える仕組みづくりの必要性を感じる。
- ・ (地域まちづくり活動に際し) 個別の公園利活用の実施に当たっては、行政の専門的知見が欠かせないので、ご助言・ご支援等、相談に乗っていただければと思っている。
- ・ 話し合いは公園再生が終了した後も、定期的に(1年に1回、3年、5年に1回など)行われるようになると、公園の活用について柔軟なルール作りが可能となり、住民自治が進むような気がする。そんな仕組みづくりや、話し合いを進めるためのサポートを、土木事務所に相談すれば気軽に乘っていただけるととても心強い。
- ・ 町内では、古くから公園を使ったまつりや餅つきが行われてきた。40年前、区画整理が行われたときに、自分たちの住むまちを自分たちでよくしていこうと当時30代の子育て世代の方々が強く団結しいろいろな取組みを始めた賜物だ。その世代の方々は70代となったが、いまだに公園・町内に愛着を深くもって、イベントづくりに協力してくださっている。最近では、公園にキッチンカーをいれてみたり、おまつりの際に様々な企画も実践した。

若い世代にも「公園をよくしたい、公園で楽しい企画をつくってみたい」と思っている人が一定数いる。担い手が高齢化しきってしまう前に、「公園再生」をきっかけとして、ワクワクした新しいまちづくりが始まると嬉しく思う。

おまつりなど大きなイベントを実施するには、労力もかかるが、「土曜日の朝に入れたてのコーヒーを楽しもう」、「第3日曜日もちよりバーベキューデー」など、ちょっとした準備で実施できる、フラットとちよれて交流できるような企画もたくさんある。話しあいをする過程で、若い世代が企画者として、「自分たちのやってみたいこと」を実践できるようになり、公園が自己実現の場になれば、公園そして自分が暮らすまちへの愛着も高まり、「地域に身近は公園が暮らしの質を高める」ことにつながると思う。

公園再生が、住民の「自分立ちのまちは自分でつくる」という機運を高め、まちづくりへの入り口を増やすことになることを心より期待している。

- ・ 第3章について、先進的な事例を分析し、総合的な観点から、パークマネジメントの仕組みづくりや担い手の体制について検討が求められる。例えば賑い活力を創出するためにはどのような仕組み・体制が必要なのか、健康や環境共生の機能を拡充するにはどうしたらよいか等、具体的な検討が重要である。

地域に身近な小さな公園であっても、市民と共に公園のポテンシャルを掘り下げていけば、公園の再生は可能である。川崎市では、公園愛護会の高齢化による担い手不足が課題だったが、市と中間支援組織がパートナーシップを組んで公園の運営に取り組んでおり、このような新しい仕組みづくりが必要である。

- ・ プレーパークを行政主導で各区に整備して欲しい。公園は子どもが成長する場であり、地域住民の交流の場でもある。プレーパークを作ることで、プレーリーダーが遊び方を伝えることができ、親子同士の交流の場ともなる。さらに地域住民の交流の場となることを願う。
- ・ プレーパークは、公園で、地域の多世代の人が交流する場としてとても最適な場だと思う。今あるプレーパークの継続はもちろんのこと、各区に一つはプレーパークが定期的に分けるよう、行政の方が協力してくれると嬉しい。都心部のように、プレーパークも屋外型の子育て支援拠点として、市でも予算がつくようになるとよい。

#### 【市の考え方】

- ・ 公園利用の実態やもっと公園でやりたいことについての数多くのご意見をいただきました。
- ・ 地域に身近な公園が、誰でも自由に、もっと使いやすく、もっとやりたいことを実現できるような場となるよう、より多くの方が「公園の楽しさに気付き、公園を活用、応援する」といった様々な段階につながるための仕組みづくりを進めていけるよう、全体的に見直しました。

## 総合的なマネジメント（5件）

### ■総合的なマネジメント（5件）

#### 【市民意見の概要】

- ・ 行政コストの最適化と公園ストックの最適化を明確に打ち出されたことは市として英断だと思う。
- ・ 「公園整備、緑を減らさない（伐らない）、緑を増やす」対策は住みよい魅力ある名古屋市のために重要と思う。予算を増やす方向を考えてほしい。
- ・ まちの変化に合わせて計画を定期的に見直せる柔軟さも求める。
- ・ 感じるのは「樹木を含めた公園整備にはお金がかかること」を市全体として理解すべきだという点だ。この視点が抜け落ちていて「経費削減」ばかりになりかねないと危惧している。15ページに示されているが、全体の公園数が横ばいであるのに対し、平成中期以降、急速に公園維持費が減らされているのはどうしたことか。除草・清掃などは、中心街区内で民間事業者が関わっていると思われる久屋大通公園（今回の「地域に身近な公園」とは異なるが）でも追い付いておらず、他の都市からの来街者の友人に指摘され、恥ずかしい思いをしたこともある。運営管理の状況（7ページ）に示されている、民間・ボランティアに共助を求めることもあってよいと思うが、都市運営には費用がかかるものだというのを忘れず、今回の指針が単なる「経費削減策」にならないように気を付けてほしい。

- ・ 「舗装の広場を整備することで、マルシェ等のイベント、キッチンカー設置がより行いやすい環境を整える」(27 ページ)、「施設のダウンスケール(砂場を小さくする、複数の遊具を複合遊具 1 基にまとめるなど)や、公園間での役割分担(広場を重視する公園は遊具を減らすなど)を検討する」(32 ページ)、「管理コストの縮減をはかります」(33 ページ) など、指針(案)全編にわたって「経費削減」「縮小」「コンクリート化」ばかりが目立つ。公園・緑地はカネがかかるものだ。そこをケチって収益化ばかり意識したり、経費削減ばかり強調したものにならないよう、むしろ、公園維持費の縮減し過ぎな点を改めるべきだ。

#### 【市の考え方】

- ・ 現状の公園ストックに対し再整備や公園を安全・安心に利用してもらうための、除草・清掃、樹木管理、施設管理など、様々な維持管理にかけられる予算が限られており、公園施設の量の適正化や省メンテナンスなどを考慮する必要があります。
- ・ 既設公園の再整備においては、施設総量を抑制するなど、公園ストックの最適化の取組みも進めますが、経費削減を目的とすることなく、公園のポテンシャルを的確に捉え、公園の特色を生かしながらまちの変化にあわせ重視する機能、簡素化する機能を設定し魅力ある公園を目指していきたいと考えています。

## その他のご意見

### その他のご意見（37件）

#### ■誰もが使いやすい公園づくり（4件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 公園に対する不満として「ベンチが少ない」という点が挙げられているが、高齢化により足腰が弱った人の利用の増加を考慮し「両脇に手すりがついているベンチ」「立ち上がりやすいように座面が手前に傾斜がついているベンチ」を設置していくと良いと思う。
- ・ 多様な利用者に配慮したバリアフリーを充実させ、使いやすい公園とすることを求める。
- ・ 高齢者が杖歩行をされている姿を見かけるが、段差が多くあり、空間が区切られている感じがする。
- ・ 多様性の時代の背景として、遊具や設備（特にトイレ等）等、インクルーシブな公園が増えることを期待する。

##### 【市の考え方】

- ・ ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。また、地域に身近な公園の再整備にあたっては、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが利用しやすい公園となるよう、段差解消などのバリアフリーに配慮した空間づくりに努めてまいります。

#### ■防犯カメラ（2件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 公園から防犯カメラを撤去してほしい。防犯カメラは肖像権の侵害、プライバシーの侵害で、撮影されることは苦痛だ。管理し運用されていてもダメだ。  
防犯カメラに防犯効果はない。日本弁護士連合会の資料により明らかだ。  
防犯カメラは、税金の無駄遣いになる。  
企業や住民が設置する防犯カメラも肖像権の侵害、プライバシーの侵害だ。条例で禁止してほしい。  
過去の判例から見て、相当程度犯罪発生の可能性がなければ防犯カメラは正当なものとなさず、プライバシーや肖像権の侵害となる。わずかな犯罪数でこれを満たすことはできないはずで、防犯カメラ設置は、違法となる可能性が高い。
- ・ 以前は、個人がごみの空き缶を貯めていたこともあり、園内をバイクで暴走するなどもあったが、監視カメラの設置により、安全な公園に戻ってきていると感じることもある。

##### 【市の考え方】

- ・ ご意見の趣旨を踏まえ、プライバシーの保護と防犯カメラの有用性とのバランスを十分に配慮しながら、「名古屋市公共的団体による防犯カメラの設置及び利用に関するガイドライン」等に基づき、今後も適切な運用に努めてまいります。

#### ■公園が不足する地域（11件）

##### 【市民意見の概要】

- ・ 区によって公園数に差がある。熱田区、港区は多い方だが、昭和区は少ない。そのことも視野に入れてほしい。
- ・ 公園の数が根本的に不足しており、子どもたちが気軽に遊べる場所が限定されている。保護者の目

が届きやすい距離に地域に身近な公園があれば、安全面でも遊ぶ機会の創出においても効果的だ。

- ・ 私の住所地域では、小学生以下が日常使いできる行動範囲に公園がない。どんぐり広場は宅地に変わり、神社の公園は閉鎖されたからだ。このようにオーナーが民間の場合は、小公園として使われていた憩いの場が突然なくなることがある。オーナーからしたら、遊具の管理費は高いし固定資産税もかかる。家を建てたり駐車場にしたほうが儲かるだろう。こうならないため、税制優遇をするか、寄付しやすくして市区の所有にする必要があると感じる。
- ・ いまさら土地があるとは思えないが、小学生が日常使いできる行動範囲に小規模公園を整備してほしい。そこを遊具や東屋が、災害時に避難テントや緊急トイレになるような設計にできないか。トイレがないと防災拠点になれないし、避難者も困ってしまう。
- ・ 歩いて行ける距離に公園がない、公園の不足する地域への新規整備や狭小公園の拡張をすること、地域格差をなくすことを公園整備の計画に位置づけてほしい。

指針（案）の中に、地域に身近な公園がない地域への公園整備の現状と今後の方向性についての記述がないことは問題ではないか。市内には 33 か所の「街区公園適正配置推進学区」がある。昭和区は、歩いて行ける距離に公園がない、地域に身近な公園がない地域が 5 か所あり、その整備は非常に遅れている。区全体でも児童一人当たりの公園面積が市内最低だ。適正配置推進学区である松栄学区、御器所学区は歩いて行ける距離に公園がない、あっても小さな公園しかない地域だ。松栄学区、御器所学区は近年人口増加の傾向にあり、とりわけ児童数が増加しており、遊び場の不足が深刻だ。保育園の新設も続き、小さな公園に数か所の保育園が時間を分け合って使わざるを得ない事態も起きている。松栄学区は児童数が増え、学校の校庭も狭くさらに校舎の増設により運動場がますます狭くなり、放課時間もクラスが交代で使っている。

当局は「土地さえあればいつでも公園は作る」としているが土地確保は容易ではない。公的な土地確保は困難であり、民間の空き地はあっても市の提示する買取り価格との乖離は大きく、何らかの手立てなしには解決は難しいのが現状だ。

- ・ 昭和区御器所エリアでは近年のマンション建設ラッシュによりファミリー世帯が急増しているが、既存の公園の数や広さがその人口増に追いついていない。需要と供給のバランスが完全に崩れている。こうした急速な住宅開発エリアへの重点的な公園確保を、同地区に住む子育て世代として強く求める。区全体でみると、確かに鶴舞公園や川名公園など規模の大きな公園があるが、局所的に見ると公園が不足しているという切実な実態がある。わざわざ車に乗って公園に行かざるを得ない不便さを解消してほしい。市が進めようとしている地域に身近な公園再生指針は、その名の通り既存公園の「再生」に重点を置いている。マクロで見れば、人口減少が進む中で既存の公園をニーズに応じて再生するのは自然な流れだと思う。しかし、ミクロで見た時に、人口増加しているエリアがあることも事実だ。ぜひそのエリアに応じたきめ細かな公園政策をお願いしたい。

上述した通り、近年御器所エリアは、その利便性からマンション建設や戸建て住宅など住宅開発が非常に盛んなエリアだ。今は売り手市場ということもあり、少しでも土地があれば不動産業者が購入し、マンション等をすぐに建設してしまう。不動産業者が先に土地情報を獲得しているので、公園新設によさそうな候補地を見つけた時にはもう手遅れであるケースがほとんどだ。住民の情報収集能力には限界がある。市場経済に任せたままにすると、公園が足りないまま人口だけが増えていく、歪なエリアになってしまう。「〇〇㎡以上の土地の売却には行政への届け出を必須とする」といったルールを設けない限り、不動産業者より先に情報を入手することが困難かと思う。先に情報を入手することで、行政主導の土地確保が容易になると思う。御器所エリアは公園新設の推進地区

であることを聞いた。行政は「土地さえあれば公園作る」という姿勢だそうだが、そういった待ちの姿勢、受け身の姿勢には住民として物足りなさを感じる。

候補地が見つかったとしても、「街区公園から半径 250 メートル以内では公園を新設できない。」という規制があると聞いた。都市計画の中で、公園だらけのエリアを作らないための規制かと思うが、エリアの特性に応じて規制を解除する等の臨機応援な対応を求める。

- ・ 御器所エリアは、南北に旧塩付街道があり、古くから人々が行き交う町であった。そんな町をより住みよい町として次の世代に残したいと思っている。ぜひ公園作りを推進してほしい。
- ・ 近年、町内会では災害時の自助・共助推進のために町内会が主体となって近隣住民の交流の場を設けようとする動きが高まっている。その背景には、急激なマンション増設と人口増により、避難区域に指定されている小学校だけでは受け入れが不可能ではないかという懸念がある。そうした場合に備えて、どの地域にどのような人がいて、有事の際にはどのような対応が求められるか、日頃から意識を高めていく必要性を感じている。

現状では、町内やその付近において、避難はおろか交流のために集まれるような小さな広場さえない。既存公園の再生も大切なことだと思うが、住民の声を拾い、地域に身近な公園新設について検討してほしい。

行政は土地さえあれば公園を作る姿勢とのことだが、規定以上の面積がなければならない、規定の範囲内に複数の公園を作ってはいけない等の制約があるようで、規律に則った土地の確保は困難を極めている。御器所エリアのように急速な人口増（特に子育て世帯）が見込まれる地域については、需要と供給に応じた規制緩和等を視野に入れてほしい。

- ・ 市では地域間における 1 人あたりの街区公園の面積に隔たりがあるように思う。特に昭和区は子育て世代の人口が増えているのにもかかわらず、地域で子どもたちが遊べる公園が少ない。新規整備や機能を考えた公園を地域住民と共につくっていく必要性を感じる。また、保育園や学童でも公園は利用されることがあり、園庭のない保育園にとっては子どもの育ちにとって死活問題である。
- ・ 昭和区には、公園が極めて少ないことに驚嘆した。緑区には、歩いていける公園がふんだんにある。中区でも数多くはないが、小学校の隣には、適当な公園が必ずある。多くは、小さい子が遊ぶスペースと大きい子が遊べるグラウンドが併設されている。昭和区では、超大規模な公園はあるが、地域の公園というよりもあちこちから集まって利用されている公園という状態だ。地域に歩いていける公園がいくつかあるのが理想である。南区でも今日はどこに行く？と選択できるほどの公園がある。同じ名古屋市の子どもなのにこんなに格差があっているのだろうか。勤務する保育園の周りには、街区公園の適正配置推進地区だが、土地がないということで公園づくりが進んでいない。市が独自の努力をしなければ、実現しないと思う。公園はできないのにマンションが次々建っている。人口が増えてますます公園不足になると思う。今でも小学生が増えて校庭にプレハブを建てて校庭すら狭くなっているところがある。今回の調査でも分かるようにほとんどの園は、圏外に散歩に出かけ体づくりをしている。保育園も増えていて散歩先にいくと他の園の子たちがすでにして使えなくて次の公園を探して歩くなどという状況がどの園からも聞こえてくる。どんな公園にしていくか考えることも大事だが、無いところには作っていくという方針をしっかり持って実現してほしい。
- ・ 36 ページの「公園の整備について、本市の公園整備費として割合が高い新規公園整備の事業推進の見直しを行い、」には異議を申したい。

昭和区、とりわけ松栄学区・御器所学区は昨今、世帯型マンションの乱立により、子どもの人口が増え、保育施設もたくさん増えた。現存の公園だけではまったく足りていない。30 年前にできた

900 m<sup>2</sup>余りの「台町ふれあい公園」は、日中は保育園児や地域の乳幼児、午後は学童児であふれている。既存の公園の夢のような再生計画の根本の公園が、子どもの人口に対して明らかに不足、地域格差を生んでいる。

13 ページにあるように、「保育園や学童保育施設にとって公園はなくてはならない存在」だ。既に、街区公園適正配置学区に指定されていても、住民の力で土地を探すことは困難だ。こうした地価の高い都市部での新規公園づくりにも、責任を持っていただくよう、切に望む。指針（案）の「割合が高い新規公園整備の事業推進の見直し」という部分には、強く抗議する。

#### 【市の考え方】

- ・ 本市では、1人当たりの公園面積や公園の配置状況には地域によって差があると認識しており、一定基準のもと街区公園の適正配置を進めています。
- ・ 本指針では、新規公園整備の事業推進の見直しと既設公園の再整備を拡充する「総合的なマネジメント」を進めることとしていますが、地域に身近な公園が不足する地域では、今後も適正配置の推進に取り組んでいくことがわかるよう記述を見直しました。

### ■緑の保全・創出（2件）

#### 【市民意見の概要】

- ・ 東京都など、他の都市と比べて名古屋市は緑地が少ないように感じる。さらに、区画整理等により、山林・農地が開発され、緑の減少に拍車をかけている。区画整理等で開発する場合は、緑地・公園を設け、面積を増やすのが良いと考える。
- ・ 緑地・公園は新たに設置するものに限らず、既にある雑木林・池沼・農地等をそのまま保全することも有用だ。私有の山林を緑地として指定したり、市民農園を増やしたりして、緑の減少を食い止めてほしい。

#### 【市の考え方】

- ・ 土地区画整理事業や開発行為に伴い、一定の基準に基づき公園の整備を行い市に提供することとなっています。
- ・ 都市緑地法に基づく制度などを活用して市内に残された貴重な緑地の保全に努めていきます。

### ■猛暑対策（7件）

#### 【市民意見の概要】

- ・ 維持管理などが大変なことも理解するが、安全に遊べる水場がある公園を作してほしい。夏場になると40度を超える気温が続く中、子どもを安全に遊ばせられる水場の公園がない。広域で言えば、戸田川緑地に立派な無料で遊べる水場があるが、市内でいうと他にみあたらない。庄内緑地、鶴舞公園や天白公園などは水場として遊べない。
- ・ 近年、猛暑によって夏は公園を利用することができない。そうすると、屋内の有料施設や家で過ごすことになり、毎日有料施設で過ごすことはできないので、家で過ごす時間が増えると子どもたちは運動不足になったりストレスがたまったりする。そこで全ての公園に屋内施設、水遊び場、日除けの屋根があれば夏や雨の日でも遊びやすいと思う。
- ・ 環境共生型の緑地を特に増やしてほしい。雑木林や湿地等は、生物多様性の保全に寄与するだけでなく、ヒートアイランド現象・地球温暖化の抑制にも寄与する。夏の名古屋は非常に暑くなるが、緑があることで少しでも猛暑を軽減できれば良い。

- ・ 夏でも遊びやすい環境にして欲しい。  
例：芝生、日さし、ミストシャワー、水遊び場など
- ・ 今の夏は高温で、屋根付きのベンチ等有ると有難い。
- ・ 近年の暑さ寒さの厳しさから、公園での催事の開催時間を短縮したり中止せざるを得ないこともある。防災パーゴラなどがあれば、休憩や滞在がしやすくなり、利用の幅が広がるとも感じている。
- ・ 温暖化に対応した公園の整備をしてほしい。近年の温暖化の中で、7月～9月頃にかけてはほとんど日中に公園が使用できない現状があり、屋根付きの休憩場所や樹木による日陰の確保、水遊び場の設置、遊具に屋根をつけるなど暑さへの対策が必要と思う。

#### 【市の考え方】

- ・ 近年の夏の猛暑の影響で、水遊び場や屋根のある休憩場所を求めのご意見を数多くいただきました。水遊び場については、維持管理の観点から、整備は限定的にならざるを得ませんが、公園樹木や屋根付き休憩所による日陰、熱ストレスが少ない仕様の製品の活用など、夏の公園利用にも配慮するよう取組んでまいります。

### ■その他（11件）

#### 【市民意見の概要】

- ・ 小規模な公園は雑草が伸び放題となっていて利用を避けるケースがあると思う。ヒートアイランド対策や自然共生は理解するが「自律型の草刈りロボ」や「ヤギ・カモ・ガチョウなどの動物による除草」など、うまく折り合いをつけられると良いと思う。
- ・ 公園内の「トイレの最新化」についてはあわせて自律型のロボやドローン、センサー等の最新の防犯技術の実証実験などに活用すると良いと思う。
- ・ 脱炭素かつ温暖化対策のためには園内のコンクリートを「保水性舗装」および「遮熱性舗装」を施すことが有効と考える。更に真夏の遊具は低温やけどのリスクもあるため、断熱・遮熱塗装を施すことも検討してほしい。
- ・ 公園の騒音トラブルやそれに起因した球技禁止などの利用制限される問題については、「近隣住人に耳栓を配布する」「近隣住居に対して複層ガラス設置工事の補助金を出す」「NTT等が研究開発を進めている『空間をノイズキャンセリングする技術』を活用する」などの対応で改善出来ると良い。
- ・ 雨の日でも遊べる様に屋根があるところが良いと思う。
- ・ 「アーバンスポーツ広場」については賛成だ。若宮大通公園などには「スケートボード」スペースや、スプレーアートなどのスペースなども検討してもいいと思う。ボルダリング、BMX、スラックライン、パルクール、スケートボード、3×3バスケットボールなどが楽しめるスペースは、特に都心部を中心に全市に広げてもいいと思う。その一方で「夜間閉鎖を基本とし、受益者負担による維持管理（簡便な方法で使用料徴収できない場合は無料も選択肢となる）の検討が必要」（34ページ）とあるが、「夜間も楽しめる」「基本として無料で楽しめる」設定も必要だと思う。なぜ、新しいスポーツ、遊び方は目のかたきのように扱われているのか。もっと「未来の五輪選手、スポーツ選手を生み出す」ような自由さがある公園があってもいいと思う。ただし「すべての公園でこれらをオープンに設定する」必要はないと思う。住宅地と都心中心部で迷惑の少ない地域の公園のありようは別だと思う。
- ・ 年々、地球温暖化が進み、公園で気持ちよく過ごせる時期が短くなってきている。夏場は雑草や蚊などで、一人も利用していない。

名古屋以外だが、流行ってる公園は、最近それなりに素敵なカフェがある。書店とカフェがコラボしている所があるが、平日でもたくさん人がいる。先日、図書館に行ったが本が古い。30分以上は駐車場有料なので図書館とカフェを作ってほしいと思う。カフェ利用したら駐車場無料にしたり。各区に作ってほしい。予算がかかるので、難しいかとは思いますが実現したら嬉しい。

- ・ 昨今の夏場の猛暑は深刻で、屋外で遊ぶには危険が伴う。滑り台は熱くて火傷する。年間を通じて快適に屋外で遊べる期間というのは限られている。猛暑、雨天など天候に左右されない屋内公園、屋内遊び場はこれからの時代に拡充していく必要があるように思う。
- ・ 中川区松蔭公園の整備と拡充について。
  - ・ 松蔭公園は心と頭の中の宝物である。一色水門の池で水浴場で水遊びや水泳をし、シジミ採りをした。昭和34年の台風で残った黒松は平成12年東海豪雨時の越水にも耐えた。
  - ・ 国による50～100年後の庄内川の計画づくり「コレカラプロジェクト」に参加した。説明会で中川区の木がクロマツであることその歴史を紹介し保存を提言した。川歩きでは、庄内川の沿川の変遷や歴史を解説した。
  - ・ 平成元年～ 国による河川激甚災害対策特別緊急事業が開始された。
  - ・ 「庄内川に中川区の木 クロマツ並木づくり隊」を10人程度で結成し活動を開始した。コロナ等により10年程度休んだものの、現在も活動している。メンバーの高齢化によりほとんど1人で活動しており、募集しても集まらない状況である。
  - ・ 鋳物製ベンチの寄付の話があったものの、地元での受け入れがなく残念だった。
  - ・ ローターリーに災害時用の倉庫を置き、その周囲を町内会用の花壇とし、苗の行政支給、民間寄付に期待する。
  - ・ 堤防の外来種駆除を行った。堤防法面で松の発芽を発見し保護をしたが落葉が困ると切られてしまった。落葉の悪いところを逆手にとった活用方法ができるとよい。(子どもの土手滑り用に敷き詰めるなど。)
  - ・ 東北大震災によって被害を被った高田松原関係者との交流がある。
  - ・ 移植苗木作りに数年かかることから、中堤の耐震工事について知りたい。
  - ・ オギ原の草刈りした時に荒子小OBの青年らに松林保全活動を解説したら喜んでくれ、はげましの声を聞き嬉しかった。
  - ・ 54人もの死者が出た台風だったが南陽町等の新開地では木造団船が今の各戸1台有りと言われ、当時は木造団船が1戸2～3艘あり男女を問わず小学高学年になると竹竿様船方法を身につけた。当時今の道路並に水路があり1km位は船で移動したし荷重も300kgくらいは積んで移動できた。船運は最強の人と物の移動手段で省エネの秀れてることを改めて思い、利用したい。三角地にある水防倉庫横のヨシ原が少し人工的にへこまされてるのは団船操作訓練場所と考え、船の引き上げ用ろくろや洗い物用に手押し井戸ポンプ用に予算も付いていたが、東海豪雨被災後、返上流用されてしまった。早く目鼻を付けてほしいと夢見ている。
- ・ 中川区高畑五 八田親水広場、高畑三・荒中町の荒子川用水路の活用ができるとよい。
- ・ 港区藤高二丁目～藤高五丁目、藤高川を有料小魚釣専用に変更できるとよい。

#### 【市の考え方】

- ・ ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。